

様式第 2 号（第 9 条関係）

会議録

会議の名称		令和 8 年度第 2 回ふじみ野市文化振興審議会			
開催日時		令和 8 年 5 月 2 9 日（金） 開会時刻 午後 6 時 0 0 分 閉会時刻 午後 7 時 3 0 分			
開催場所		ふじみ野市役所第 2 庁舎 3 階 B 3 0 1 会議室			
出席した者の氏名		役職名	氏名	役職名	氏名
		会長	土屋正臣	委員	大井田かおり
		副会長	進藤美奈子	委員	尾澤景子
		委員	鈴木長恵	委員	佐久間茂
		委員	田中義則	委員	山下貴央
		委員	石平裕一	委員	
欠席した者の氏名		委員	渡辺 行野	委員	遠山菜穂美
		委員	酒井 博基		
会議の議題		議事（1）文化事業の概要について 議事（2）令和 8 年度文化芸術活動未来応援事業の承認について 議事（3）令和 8 年度文化芸術企画提案型委託事業の報告について 議事（4）指定管理者の事業計画について 議事（5）その他について			
会議の公開又は非公開の別		公開			
傍聴人の数		8 人			
会議の内容		別紙のとおり			
会議資料		別添のとおり			
事務局		市民活動推進部 文化・スポーツ振興課			
議事の確定	確定年月日	令和 8 年 6 月 1 2 日			
	記名押印 又は署名	役職名 会長 土屋 正臣 印			

(会議の経過)

発 言 者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
事務局 土屋会長 佐久間委員	【議事(1) 文化事業の概要について】 資料1「令和7年度ふじみ野市の文化事業」に基づき説明 事務局より説明した内容に意見や質問はあるか。 未来応援事業の執行率はどのくらいか。予算の余りの取扱いはどうなるか。
事務局	昨年度も今年度同様、1件あたりの上限金額を15万円に設定して募集した。採択は4件であり、予算額50万円に対し、補助総額は458,869円であり、予算額に近い執行状況である。当初の募集段階で予算上限に達しない場合は、追加募集等を実施するなど、予算執行に努めた。
石平委員	文化事業全体で音楽の活動が非常に多い。音楽の他に美術系の取り組みや要望、問い合わせはあるか。
事務局	補助事業については、音楽以外に美術系の提案もあった。しかし、美術系は個人の方の展示会開催が目的である内容が多く、要件に沿って選定した結果、不採択であった。一方、アートフェスタでの展示を行っているほか、市役所ギャラリー等の貸出し状況は、書道や現代美術等で人気があり、予約で埋まっている状態である。このことから市内のサークル団体活動は非常に活発である。補助事業においても美術分野で公益性がある内容での応募があると良い。
大井田委員	人口規模と比較すると、素晴らしいコンサートホールが2つあることや、アートや音楽に力を入れている点が素晴らしい。これらを対外的に「アート・音楽の街」として宣伝し、定着させていければ良いのではないか。市としての対外的な宣伝活動はどの程度実施しているか。
事務局	様々な媒体を使って宣伝し、「ふじみ野市は面白いことをやっている」という認識は広まりつつある。また、旧西公民館の大規模改修工事を行い、来年夏の完成を見込んでいるため、完成した際に、ソフト面・ハード面の両方で文化を推進していると対外的にアピールできるタイミングだと考える。さらに、文化協会や関係団体の先生方も、市外を含めた方々で、ふじみ野市の文化活動を宣伝していただいている。今後は、全庁的な文化政策の中で、どのように発信するか、これから検討していく必要がある。
土屋会長	対外的な都市のイメージ形成の点でも、「音楽の都市ふじみ野市」というキャッチフレーズをつけるのも重要なことだと思う。

発 言 者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
佐久間委員	未来応援事業や企画提案型委託事業の申請手続きについて、一般の方が最初から「公益性のある事業」として補助金をもらえるレベルで企画することは難しいと思う。手続き方法や公益性のある企画についての説明会はあるのか。
事務局	募集に合わせて説明会を実施している。過去の事例では、単なる展示だけでなく、市民の方が参加できるワークショップを併催してほしい旨を市から提案したことがあった。提案時点で全てが完璧であることは難しいため、引き続き、市としても申請手続き時に支援を行う。
佐久間委員	アーティストの質の向上の点も踏まえ、継続して支援を実施してほしい。
土屋会長	地域文化クラブの中に「自然科学部」の具体的な活動内容を教えてほしい。文化協会所属の尾澤委員は内容を知っているか。
尾澤委員	自然科学部は、各々が自分のテーマに沿った活動をしている。野外での水質調査等の実施や、藍染めや掃除機の作成、水をきれいにするといったアートに関わる活動も実施した。講師は文化協会からテーマに合わせて派遣している。単なる自然科学だけではなく、アートとの接点を持たせる試みとして実施した。
土屋会長	文化芸術基本法第13条に文化財に関する記述もあり、科学とアートは本来一体的なものである。自然科学部の活動が文化振興に含まれていることは、文化の裾野を広げる意味で非常に素晴らしい取り組みだと思う。
	【議事(2) 令和8年度文化芸術活動未来応援事業の承認について】
事務局	資料2-1「令和7年度ふじみ野市の文化事業」及び資料2-2「令和8年度ふじみ野市文化芸術活動未来応援事業―企画一覧」に基づき説明
土屋会長	事務局より説明した内容に意見や質問はあるか。
進藤副会長	事務局案に賛成。同じ団体が毎回採択されていることが気になっていた。補助金が税金である以上、様々な人に活用されてほしい。自立運営できる人が補助金を目的に申請するのは本来の趣旨と異なる。ある団体は50周年記念コンサートでの応募であった。当団体のように、50年や100年といった節目は応援したい。通常 of 定期演奏会は自ら運営すべきだが、節目のコンサートは費用がかかるのもあり、長年続いてきたことに対する思いを汲

発 言 者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
事務局	み取りたい。また、ワークショップを開催することは、音楽の団体が節目のコンサートを実施する際には不本意となる可能性もある。本格的なコンサート開催に配慮して調整してほしい。 明らかに自立運営ができる団体は不採択とした。以前の審議会等の意見を踏まえ、事業趣旨に合わない場合は不採択とした。今回採択したコーラス団体は歴史のあるサークル団体であり、自立運営ができる想定があるが、節目のコンサートという視点と、公益的な部分を加味して採択した。
佐久間委員	事業名の未来という言葉が不適切ではないか。歴史があることは素晴らしいので、別の枠組みを作るのはどうか。
進藤副会長	以前、若者だけでなく全員に未来はあるため事業名は問題ないと意見があった。
事務局	未来応援事業の今回の採択にあたっては、走り出す団体を支援する側面と、歴史ある団体のその先を支援していく側面がある。事業の内容を分かりやすく募集要項に反映させる必要がある。今回採択したコーラス団体は、歴史のある団体として事業の段階を上げる意思を感じた。事業の段階を上げる具体案を盛り込んでコンサートを成功させてもらいたく条件付きの採択とした。
石平委員	軽音楽団体を条件付きの採択としているが、条件の会場の安全管理を求めることについて、詳細を知りたい。
事務局	提案時点のため詳細は不明であるが、スタッフが一員として警備する案であった。当イベントの参加者は若い世代が多いと想定されるが、学生だけで安全管理を行うのはリスクが高いと考え、入退場管理や混雑対策を強化するため、大人が適切に管理できる体制を整えることを採択の条件とした。大勢の参加が想定されるため、特に混雑時や入退場の安全管理をしてほしいと考えている。
土屋会長	市と文化協会の役割分担はあるか。将来的に、助成事業は文化協会に委託や一部を切り離す予定はあるか。
事務局	文化協会が自立したタイミングで、文化協会が独自事業として補助事業等を担っていく可能性がある。文化事業を市役所だけが担っていくものではない。文化協会だけではなく、他の組織も含めて段階的な組織の見直しを、今後の組織体制に合わせて発展させたい。

発 言 者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
	【議事(3) 令和8年度文化芸術企画提案型委託事業の報告について】
事務局	資料3「令和8年度文化芸術企画提案型委託事業の報告」に基づき説明
土屋会長	ふじみ野市では、人口に対する割合として、客席より出演者等として舞台の上に上がりたい人がとても多い。市民の興味や文化レベルが高いと感じる。
進藤副会長 事務局	観客が育たないという課題である。 周知等を通じて観客を育てることも必要である。
	【議事(4) 指定管理者の事業計画について】
事務局	参考「指定管理者の事業計画について」にかかる資料に基づき説明
土屋会長	事務局より説明した内容に意見や質問はあるか。 (意見・質問なし)
	【議事(5) その他について】
進藤副会長	企画提案型委託事業が始まって3年経過したが、来年度の募集要件等を引き続き検討してほしい。団体が初年度と比較して、企画や集客等に疲弊し、発表会型の提案となる傾向であると感じている。発表会形式ならば会費で実施すべきであるため、募集要件を考えてほしい。
	募集要件の案について、土日だけではなく、平日の空いている場所を定期的に使うのは効果的である。例えば、奇数月の平日午前中に毎回コンサート事業を行うと企画や集客がしやすい。1日の事業だけでなく、定期的開催型の事業提案を認めてはどうか。また、自分達で運営できるようになるためには時間が必要である。一度のイベントに対しての助成ではなく、地道に活動する事業をサポートする仕組みにルールを変えるべきと考える。
	市民に還元され、他の事業にもつながるような募集要項を来年に向けて、より多くの人が納得できるものにしたい。
	また、企画提案については、文化協会への特別枠を再検討し、他と同様に審査すべきと考える。
事務局	委員からの様々なご意見を踏まえ、来年度の募集要件の見直しを進めたい。ジャンルを分けない方が、より面白い企画が出てくる可能性があることや、1日の企画の方が初めての人は企画しや

発 言 者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
土屋会長	すい点も考慮したい。 毎年同じように補助金に応募する団体は、代表者名を変えてくるので注意したい。また、補助金ありきの事業計画は自走化を阻害する要素となる。スタートアップ支援や場所の提供等、状況に合わせたメニューを細かく検討すべき。
佐久間委員	聴き手の開拓をやった方が良い。月 1 回等で敷居の低いコンサート等の事業を 3 年ほど継続していると、観客が育つ。これは観客への投資であり、年 1 規模のイベントへの集客へつながる可能性がある。また、文化財を活用する枠があっても良い。
大井田委員	月 1 回の公演のような提案枠があると違った種類の提案が生まれる。
事務局	文化協会からは様々な性質の団体がコラボした提案をして頂いている。これは文化協会ではできない要素であり、様々な団体の支援をしていただいている。事業のあり方については、文化協会とも相談させていただく。
土屋会長	他に無ければ、議事を終了しますので、事務局に会の進行を戻します。
事務局	閉会